

1 鹿児島県の国際交流の現況

鹿児島県は、日本の西南部に位置するという地理的条件から、歴史的に外国との交流の門戸として重要な役割を果たしてきた。

薩摩半島の南西端にある坊津は、8世紀に、唐の高僧・鑑真和上の上陸地となったほか、中国、東南アジア等との貿易、宗教・文化交流の起点として栄えた。

また、16世紀には、種子島に鉄砲が伝来し、鹿児島に上陸したフランシスコ・ザビエルによってキリスト教がもたらされるなど、鹿児島は、我が国が西洋文化に初めて出会った地である。

さらに、幕末には、薩摩藩は諸藩に先駆けて近代的工業群：集成館を造るなど近代化を進めるとともに、英国への留学生派遣やパリ万国博覧会への独自参加なども行っている。

これらの歴史の積み重ねは、本県に個性的な産業や生活文化を育てており、現在においても貴重な財産となっている。県では、こうした地理的特性やこれまでの歴史的なつながり等を生かしながら、世界の様々な地域との国際交流を行ってきている。

特に、香港、シンガポール、韓国全北特別自治道（旧全羅北道）、中国江蘇省との間では、定期的な交流会議・交流協議会の開催やアジア3地域に設立した「アジアかごしまクラブ」を基軸に、経済、観光、芸術・文化、青少年等の様々な分野で交流を行っている。

上記のほか、行っている交流として、まず、中国・北京にある清華大学との間で、平成25（2013）年に今後の双方の交流・協力を推進するために締結した包括協定に基づき、青少年、学術、経済等の分野において交流事業を実施し、人材育成や人的ネットワークの構築を図っている。

平成30（2018）年7月に英国のロンドン・カムデン区及びマンチェスター市と友好協定を締結、令和元（2019）年8月には姉妹盟約を締結している米国のジョージア州と確認書を取り交わし、令和6（2024）年1月には、台湾の屏東県と交流協定を締結し、交流を促進することとした。

その他にも、海外技術研修員の受入や留学生の支援など、本県の特性を生かした国際協力も積極的に推進しているほか、市町村や民間国際交流団体等においてもアジア地域を中心に多様な交流・協力活動が活発に行われているとともに、県内各大学では留学生の受入や学術交流などが行われている。

県では、今後とも市町村や民間国際交流団体、大学等とも連携し、アジア地域をはじめとして、これまでの交流を通じて形成してきた人的ネットワークや海外事務所等を活用し、産業振興にも資する国際交流を推進していくこととしている。